

モロッコ

水資源プログラム

調査期間：2007年12月～2008年5月



評価の概要

わが国は、モロッコにおいてこれまで水資源開発・管理、都市・地方給水、下水道等、水セクターのさまざまな開発課題について、技術協力、円借款、無償資金協力の各スキームで協力を実施してきたが、緩やかな協力案件群の位置づけにあり、プログラムとしての目標設定が当初よりなされていたものではな

い。新JICA発足によるシナジー効果の発現が期待されるなか、本評価調査では3スキームによる実施済・実施中案件が最も多い上下水分野での取り組みをプログラムとして整理し直し、連携のあり方と構成の適切性等を検証し、教訓を得、今後の当該分野の協力への提言を行うためのモニタリングを実施した。

評価結果

評価の背景・目的

わが国の対モロッコ支援においては「農業用水・飲料用水確保のための水資源開発」は重点分野とされており、関連分野で技術協力、円借款、無償資金協力の各スキームでさまざまな協力が実施されてきた。協力の内容については、上下水、灌漑、

特定流域を対象とする総合的水資源管理と幅広く協力を実施してきたが、特に協力実績の多い上下水分野をひとつのプログラムとして整理し直し、政策における位置づけ、戦略性、成果等を中心に検証を行った。

評価の枠組み・方針

本評価調査においては、対モロッコ上下水分野協力のうち、評価対象期間を1999～2012年とし、対象案件は次ページの表1にある15案件とした。

プログラムの目標は「安全・安定性を考慮した水供給」とし、以下の手順にて調査を実施した。

- (1) プログラムの位置づけ確認(日本側政策における位置づけとモロッコ側政策における位置づけ)
- (2) プログラムの戦略性(一貫性・成果)の確認
- (3) 実績の確認
- (4) 上下水プログラム案件のプログラム目標達成への貢献の可能性

評価結果および教訓・提言

評価調査の結果、当該プログラムはわが国の国別援助政策、中東へのODA基本方針、JICA国別事業実施計画、またモロッコの水セクターにおける開発戦略の基本となる「水法」、国家開発5カ年計画においてもその内容については合致が見られ、わが国及びモロッコ双方の政策・戦略と整合性をもつとともに、優先度の高い分野に対する支援であることが確認された。ただし、今後のモロッコの水セクターにおける支援にあたっては、近年のモロッコ政府の水セクターにおける政策や優先課題の変化(統合的水資源管理の重視等)を考慮していく必要があることがあわせて指摘された。

プログラムの戦略性については、当該プログラムが本評価を行うために後づけで構成されたことから、目標を達成するために最適な形で構成・実施されているとは言い難い。しかし無償資金協力による地方給水施設整備事業が、給水施設の維持管理体制の強化を目的とした技術協力により持続性を高めていることが確認されているほか、長期派遣専門家による草の根無償資金協力への支援、円借款案件との情報共有など

も積極的に行われてきた。また、モロッコ政府のオーナーシップが高く、かつ、わが国を含む各ドナーがそれに配慮して案件形成を行ったことにより、案件間、さらには援助機関間での連携・調整がはかられてきたともいえる。

一方で、実施中、あるいは終了した個別案件のレベルではそれぞれ成果を上げており、各案件による対象地域受益者の総数は、評価対象期間の最終年である2012年以前の2008年時点ですでに目標値を達成している。したがって、全体としては、上水についてはPAGER(モロッコ地方給水計画)の目標達成に大きく貢献しており、実施が遅れていた下水事業についても初期の事業立ち上げに寄与するとともに今後の事業継続が期待されている。さらに、上述の地方給水にかかる技術協力においては、地方給水事業の維持管理体制に関する課題に対処することにより、プログラムの効果をさらに高めたいという。

プログラム目標達成に向けて、前述の不足課題への対応を含め、改めてモロッコの水セクターへの支援を検討し、以下の

結論を導きだした。

- モロッコにおいて、現在進められている水セクター政策改革では流域単位の水資源管理体制の強化、水利用効率の改善、地下水保全、水質改善といった課題に取り組んでいる。
- これらの状況を受け、わが国の水セクター支援についても水供給のみならず、より広範な統合水資源管理をめざすプログラムへと転換する必要がある。
- ついては、プログラム目標やコンポーネントに関し、モロッコ政府の水セクター改革の重点政策および事業内容を考慮の上、水セクター全体(①水資源管理、②水利用、③水環境保全、④流域環境管理)をカバーすべくスコープを拡大する。



地方給水:建設された井戸の維持管理を行う住民たち

本評価結果の教訓として報告書においては以下の3項目を掲げている。

まず1点目には①プログラム管理・運営体制の充実と強化を挙げ、3スキームによるプログラム全体の管理を行うプログラムマネージャーの配置の重要性につき言及している。また②資金協力によって整備した施設の持続的利用と安定した水利用実現に向け、データベースを構築すること、さらに③地方村落部における各戸給水普及にともなう将来の下水水量増加による環境への影響に配慮を要する点を挙げている。

さらにプログラム計画・実施に関する留意点として、関連案件間の連携の強化をはかることの重要性とモロッコ政府のオーナーシップの尊重を挙げている。

表1 上下水プログラム構成案件一覧

案件名	区分	実施期間
1.中規模都市の給水施設の整備コンポーネント		
上水道セクター整備事業(Ⅰ)	円借款	1995~2002
上水道セクター整備事業(Ⅱ)	円借款	1997~2009
アガディール上水道整備事業	円借款	2001~2008
2.地方村落部の給水施設の整備コンポーネント		
プレ・リフ地方飲料水供給計画	無償	1998~1999
南部地域飲料水供給計画	無償	2000
ベンスリマン地区飲料水計画	無償	2005
地方給水事業(Ⅰ)	円借款	2000~2007
地方給水事業(Ⅱ)	円借款	2000~2009
草の根無償	無償	2000/2001
地方給水事業(Ⅲ)	円借款	2008~2013
3.給水施設の支援体制の強化コンポーネント		
地方飲料水供給計画支援	技プロ	2005~2007
水支援センター強化プロジェクト2	技プロ	2008年度以降(検討中)
4.下水道施設の整備コンポーネント		
下水道整備事業(Ⅰ)	円借款	2005~2013
下水道整備事業(Ⅱ)	円借款	2007~2014
都市環境改善事業	円借款	2007~2014

■ 上下水プログラムの構造

